

事業所職員向け放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 6年 5月 27日

公表: 令和 6年 6月 1日

事業所名 運動学習支援教室ふれんず秋田南教室 対象者 7名 回収率100%

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	0	静養室と活動室を分け、指導員の目が届く死角のないスペースで活動を行っています。	
	2	職員の配置数は適切である	7	0	国の配置基準を満たしており、経験と専門性を備えたスタッフを配置しております。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7	0	若干の段差もありますが、角にはクッションシートを貼って怪我の防止に努めています。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	0	職員間で情報共有を図り、日々の開所後と閉所前以外にも、活動前や事案の後にもミーティングを実施しています。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	前年度の評価集計は、ホームページ内でどなたでも閲覧できる状態で公表しています。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6	1		現在のご利用の保護者様と従業者のみの評価となっておりますが、今後必要に応じて第三者評価について検討していきます。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0	社内研修やオンラインセミナーだけでなく、外部の研修会などにも積極的に参加して支援の質の向上に努めています。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7	0	面談等を通して、利用者と保護者の方のニーズを取り入れたアセスメントシート、個別支援計画、専門的支援計画を作成しています。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	1		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	職員で話し合い、運動、学習、遊びの側面からお子様の状況に合わせた活動プログラムの作成をしています。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0		
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	0		
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	7	0	発達状況、適性を考慮しながら、保護者の方のニーズにも応えられるよう支援計画を立てています。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0		
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	0	その日の出来事を話し合い、別視点からの気付きを共有をしています。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	成長療育支援システムに日々の様子、活動内容、写真等を記録し、支援の検証、改善につなげています。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7	0		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせることで支援を行っている	7	0		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	0	管理者、児童発達支援管理責任者、担当職員など、適任者を選出しています	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7	0	送迎時などに学校での様子を伺い、情報を共有して相互理解に努め、何かあればすぐに連絡を取り合うようにしています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				現在、医療的ケアの必要なお子様は通所していませんが、必要になった際は各機関と連携して安心してご利用いただける体制を整えます。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	7	0	定期的に訪問し、紙媒体の通信でこちらの情報を伝え、相手先からもお話を伺うようにしています。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7	0		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	0	各センター主催の研修会に参加し、支援の質の向上に努めています。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	7	0	地域イベントなどに参加した際には、障害のない子どもたちと交流、活動する機会があります。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	7	0	研修や勉強会の通知があれば、参加するよう努めています。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0	送迎時に直接お話しする以外にも、成長療育支援システムを通して日々の様子、活動内容、写真を共有できるようにしています。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	7	0	ペアレントトレーニング研修を受けた職員が在籍しており、体制を整えています。		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	0	丁寧な説明を心掛け、内容を確認していただいた上で、保護者の方に同意を得ています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0	定期的に現状確認のアンケートを実施し、それ以外にもお問い合わせがあった際には、ご相談に応じて助言と支援を行っています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	7		今後必要に応じて開催し、保護者同士の連携支援を行っていきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	1	各対応ごとにマニュアルを作成しており、書式に沿って記録、報告をしています。また、必要に応じて電話や面談にて迅速かつ適切な対応に努めています。	当事者でなかった職員にも、後日報告書を通して情報の共有をしていきます。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0	毎月「ふれんず通信」という紙媒体を通して、活動の様子や行事予定を発信しています。	
	35	個人情報に十分注意している	7	0	個人情報は施錠できるキャビネットに保管し、鍵は管理者だけが持つようにしています。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7	0	教室でイベントを開催する際には、事前に周辺のお店や関係機関にチラシを配布して地域全体に告知しています。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	0	年間計画に沿って、定期的にマニュアルの読み合わせをする機会を設け、必要に応じて研修会や訓練も行っています。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	年間計画に沿って定期的に避難訓練を行い、防災センターや地域の消防署へ出向いての訓練も行っています。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7	0		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	0	契約時のアセスメントで確認して職員間で情報の共有をしていますが、活動前などにも再確認するよう努めています。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0	専用ファイルを作成し、情報共有と再発防止に努めています。	